

# 教育研究業績書

2016年10月01日

所属：英語キャリア・コミュニケーション学科

資格：准教授

氏名：三浦 秀松

研究分野	研究内容のキーワード
英語学、言語学	統語論、意味論、音声学
学位	最終学歴
博士（言語学）、修士（英語学）、学士（英語学）	ニューヨーク州立大学大学院 言語学部 Ph. D. プログラム 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. Christopher Lloyd: What on Earth Happened 「地球の歴史ものがたり」	2014年1月20日	Christopher Lloyd氏の“What on Earth Happened”から近現代史を採録し、編集・注釈を行った上で練習問題を作成し英宝社から出版した英語リーディング教材。レベルは高めで、目安はTOEIC730点程度以上。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 現代英語学へのアプローチ	共	2014年1月15日	山内信幸、北林利治（編著）東京：英宝社.	英語学初学者を対象とした入門書。世界語となった英語の現状についての概説から始まり、これから英語学を目指す者が知っておくべき内容を、ほぼ全ての分野に関して網羅している。同書の中で、第9章「英語の地球的拡散」を三浦が担当した。9章では、ピジン・クレオール、インド英語、シンガポール英語、日本人英語の特徴、日本語に入った英語（カタカナ語）など、世界中で話され、使われている多様な英語について概説している。
<b>2 学位論文</b>				
1. Grammatical Relations, Reflexives and Pseudo-raising in Japanese.	単	2008年05月	University at Buffalo, The State University of New York	ニューヨーク州立大学バッファロー校言語学部大学院に提出した学位論文。「役割と参照文法 (Role and Reference Grammar; Van Valin and LaPolla 1997)」を枠組みとして利用し、英語と日本語の「文法関係」、「再帰構文」、「(擬似)上昇構文」をそれぞれ分析した。主に日本語と英語を中心とした対照研究。
<b>3 学術論文</b>				
1. 現代英語学へのアプローチ	共	2014年1月15日	山内信幸、北林利治（編著）東京：英宝社.	第9章「英語の地球的拡散」を担当。ピジン・クレオール、インド英語、シンガポール英語など、世界中で話されている多様な英語について概説している。
2. Focus-driven Semantic Reflexivity in Japanese.	単	2012年	Grammar In Cross - Linguistic Perspective. Teruhiro Ishiguro&Kang Kwong Luke(eds.) p89-124. Bern: Peter Lang.	再帰代名詞が目的語として動詞の直後にこれないケースについて、表面上同じ現象に見えるものが実は異なる原理に基づくものであることを日本語と英語などのデータを中心に論じた。
3. 英語・日本語・韓国語に見られる単文再帰構文の対照研究	単	2010年7月7日	『交流は海峡をこえて一文化と文学、そしてことば一』岡地ナホヒロ（編著）p.97-115	日本語に見られる再帰構文の特徴が韓国語にも見られ、これが日本語と同じ原理に基づくものであることを英語との比較を通して論じた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
4. 英語診断テストの結果分析：2007年度と2008年度入学者の比較研究	共	2009年09月	岡山：ふくろう出版 研究紀要（徳島文理大学）	三浦秀松, 堀口誠信, 石崎一樹, 藤岡克則 指導要領が大幅に変化した教育カリキュラムで学んだ生徒が大学に入学する2006年問題についてすでに報告を行っているが、本稿も同じ問題意識に立って2007年度入学者と2008年度入学者の語彙・文法力を調査分析した。文法は全般的に低下しており、特に品詞に関する問題の正答率が低いことに注目した。他には、語彙と文法問題の正答率の相関は0.65程度であり、独立して測る必要があることも分かった。
5. 英語の「学士力」に向けて：英語をe-learning (NetAcademy2) で学習することに対する学生の意識調査報告	単	2009年09月	研究紀要（徳島文理大学）	英語教育の世界でもe-learningの利用は増すばかりであるが、e-learningは人間が相手ではなく、無機的な機会が相手であるので、学習者がe-learningでの語学学習にどのように感じているのかについて情意的な面をアンケート結果を元に分析し報告した。学習習慣の形成に役立つことも分かり、報告は、より有効な利用に向けての一助になると思われる。
6. インターネットを利用した入学前教育を実施するための基礎調査結果	共	2009年09月	研究紀要（徳島文理大学）	水ノ上智邦, 南波浩史, 三浦秀松, 清澄良策, 松村豊大 AO入試の拡大に伴い、入学前教育のあり方が問題になっている。インターネットを利用すれば、課題を提示したり、英語担当教員がウェブカムを通して学生と英会話の練習をしたりできる。入学予定の学生は地元の学生とは限らないが、インターネットを利用すればこの地理的な問題も解決できる。インターネットを活用した入学前教育の可能性を、高校や高校生に対して行なったアンケート結果のデータを基に、調査報告した。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 言語学入門 ―文法研究の基礎を中心に―	単	2012年6月30日	武庫川女子大学英文学会2012年度春季講演会	言語学の略史と基礎概念の説明を行い、言語学界における最新の関心事までを初学者に分かりやすく講演した。
<b>2. 学会発表</b>				
1. 意味的再帰性条件 ("Condition R") 再考	単	2008年11月29日	日本語学会第137回大会 (会場：金沢大学角間キャンパス北地区)	再帰構文の表す再帰性には、主語と目的語が表す参与者が一致する意味的再帰性と一致しない近似的再帰性がある。Lidz (2000, 2001)は、意味的再帰性は動詞の語彙レベルで再帰性 (語彙的再帰性) がある場合にのみ保証され、そうでない場合は近似的再帰性の可能性が生じると指摘し、意味的再帰性と語彙的再帰性の間には双方向条件があるとしている ("Condition R")。しかし、日本語では語彙的再帰性を持たないと思われる動詞でも意味的再帰性だけが解釈可能で近似的再帰性の解釈が困難な例が存在する。これは、語彙的再帰性は意味的再帰性を保証するが、その逆は必ずしも成り立たないことを示唆している。Lidzの唱える「意味的再帰性の条件 ("Condition R")」は、双方向条件から一方向条件へと弱められるべきであることを主張した。
2. 日本語に再帰構文は存在するか？	単	2003年11月12日	日本語学会第127回大会 (大阪市立大学杉本キャンパス)	サモア語における再帰構文の存否めぐり学者の間で議論があるが、本発表では日本語にも類似の問題があることを指摘し、「*太郎は台所で自分を切った (てしまった)」のような文に見られる日本語の反局所性 (antilocality) の問題を考察した。反局所性とは、再帰代名詞を単純他動詞文の目的語に用いて再帰表現を形成することができない現象で、様々な言語において報告されている。まず、日本語の再帰構文に見られる反局所性はオランダ語などに見られる現象とはその原理が異なることを示し、次に、日本語の反局所性は、反換喩性 (antimetonymy) に基づく (他) 動詞の選択制限によるものであり、再帰構文や再帰代名詞そのものに起因する現象ではないことを例証した。さらに、日本語に見られるものと類似の現象が他の複数の言語 (サモア語や韓国語など) でも見られることから類型論的パターンを形成している可能性をあわせて指摘した。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				

学会及び社会における活動等

年月日	事項